

文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」

歯学教育改革 コンソーシアム設立記念 講演会・シンポジウム

開催日

2014
9/26(金)・27(土)

会場

岡山大学歯学部棟2階 第一会議室, 4階 第一講義室

岡山市北区鹿田町2-5-1

- ◆連携大学：北海道大学, 金沢大学, 大阪大学, 岡山大学, 九州大学, 長崎大学, 鹿児島大学, 岩手医科大学, 日本大学, 昭和大学, 兵庫医科大学
- ◆協力施設：東京大学高齢社会総合研究機構, 東京大学死生学・応用倫理センター
東京都健康長寿医療センター, 国立長寿医療研究センター
- ◆主催：岡山大学歯学部(窪木拓男歯学部長, 森田 学教務委員長)
岡山大学病院医療支援歯科治療部(飯田征二副病院長, 曾我賢彦准教授)
- ◆共催：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(谷本光音研究科長)
岡山大学病院(槇野博史病院長)
- ◆後援：岡山県歯科医師会, 岡山県歯科衛生士会, 岡山県歯科技工士会

本講演ならびにシンポジウムは、平成26年度文部科学省大学改革推進等補助金(事業名：健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—)により実施されます。

文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」
歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会

プログラム

- 日 時：平成 26 年 9 月 26 日（金）17:00～19:30
■場 所：岡山大学歯学部棟 2F 第一会議室，4F 第一講義室

17:00～17:30 【課題解決型高度医療人材養成プログラム事務説明会】

会 場：歯学部棟 2F 第一会議室

17:30～19:30 【歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演】

会 場：歯学部棟 4F 第一講義室

座 長：森田 学（岡山大学歯学部副学部長，教務委員長）

17:30～18:00 1. 全体説明

窪木 拓男

岡山大学歯学部長

「課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う
歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した
医科歯科連携教育体制の構築—」について」

18:10～19:30 2. 特別講演

飯島 勝矢 准教授

東京大学高齢社会総合研究機構，東京大学医学部在宅医療学拠点運営委員会委員

「超高齢社会を見据えた未来医療予想図：
～今，改めて医科歯科連携で何を成し遂げるのか～」

**文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」
歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム****プログラム**

- 日 時：平成 26 年 9 月 27 日（土）9:30～13:00
■場 所：岡山大学歯学部棟 2F 第一会議室，4F 第一講義室

9:30～12:00 【歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム】

会 場：歯学部棟 4F 第一講義室
座 長：鳥井 康弘 教授（岡山大学病院卒後研修センター歯科研修部門長）
飯田 征二 教授（岡山大学病院歯科系代表副院長）

9:30～9:50 演題 1

片岡 竜太 教授
昭和大学歯学部
「昭和大学の医歯薬看護連携教育」

9:50～10:10 演題 2

弘中 祥司 教授
昭和大学歯学部
「昭和大学の在宅医療支援歯学」

10:10～10:40 演題 3

宮脇 卓也 教授
岡山大学歯学部教務委員会臨床実習実施部会長
「在宅歯科医療学を支えるシミュレーション教育と
臨床講師制度を利用した在宅介護歯科医療教育」

10:40～11:10 演題 4

佐藤 勝 教授
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座
「地域医療における「ヒト」の育成 地域全体で育て地域医療
マインドを培うー地域医療人材育成の教員の立場からー」

11:10～11:40 演題 5

池邊 一典 講師
大阪大学歯学部
「高齢者の歯と口腔機能が健康長寿に及ぼす影響：
文理融合型コホート研究より」

11:40～12:00 ディスカッション**12:00～13:00 【事業推進委員会】**

会 場：歯学部棟 2F 第一会議室

【閉 会】

●平成 26 年 9 月 26 日（金）

【歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演】

歯学部棟 4F 第一講義室

座長：森田 学（岡山大学歯学部副学部長，教務委員長）



1. 全体説明 17:30～18:00

窪木 拓男

岡山大学歯学部長

「課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う
歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入
した医科歯科連携教育体制の構築—」について」

講演概要

歯科医療が超高齢社会に適応し、国民の付託に応える必要があることは自明である。なぜなら、口腔は命をつなぎ、人間らしい尊厳や喜びを維持しながら生活を送るために必須の器官であり、この器官の感染や機能不全は生命や栄養に直結するからである。皮肉にも、これまでの歯学教育があまりに精力的に外来診療教育に取り組んで来たために、口腔の感染を防ぎ、口腔機能を維持することが、目の前の病床に伏した有病者や要介護者の生命や尊厳を守るために必要な要素であるという医療イメージを、歯科医師が共有することが難しくなっている。

このような問題意識から、岡山大学歯学部では、平成 17 年より摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会を歯科医師会の協力のもと行っており、歯科医師の生涯教育に大きな実績を残している。また、全国に先駆けて平成 20 年に設置された岡山大学病院周術期管理センターに開設当初から歯科が参画し、医療支援・周術期管理歯科における新規診療報酬収載のモデルとなった。さらに、平成 21 年より、卒前歯学臨床教育における周術期管理・在宅介護に関するインターンシップ実習を開始、平成 24 年から既に 3 度、周術期やがん治療における口腔機能管理を具体的に考えるシンポジウムを開催し、全国から多数の実務者を受け入れた。これらを基礎に、本年より学外臨床講師等を利用した在宅歯科診療参加型臨床実習を開始したところである。

幸いであったのは、口腔機能管理を具体的に考えるシンポジウム等で全国の大学の実務者と非常に緊密な連携がなされ、いよいよ歯科医学教育を改革しようという機運が全国的に高まった「このタイミング」で、本歯学教育改革コンソーシアムに対し、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラムの採択の栄誉が与えられたことである。

歯科にこのような予算を与えるべく活動を頂いた文部科学省の担当官に深く感謝申しあげるとともに、今回歯学教育改革の同志としてお集まり頂いた連携大学や協力施設の方々に心から御礼を申しあげ、今後の改革実現に向けた決意表明としたい。

●平成 26 年 9 月 26 日 (金)

【歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演】

歯学部棟 4F 第一講義室

座長：森田 学 (岡山大学歯学部副学部長, 教務委員長)



2. 特別講演 18:10～19:30

飯島 勝矢 准教授

東京大学高齢社会総合研究機構, 東京大学医学部在宅医療学拠点運営委員会委員

「超高齢社会を見据えた未来医療予想図：

～今, 改めて医科歯科連携で何を成し遂げるのか～」

講演概要

未曾有の超高齢化を目の前にして大都市圏を中心に後期高齢者が倍増し、同時に認知症や独居高齢者が激増する。その中で、我が国の医療政策が問い直されており、高度先進医療の追求だけではなく、幅広い視点から医療介護提供体制を大きく進化させていく時期に来ている。また、今後の超高齢化を考える上で「虚弱期における質の高いケア」も必要ではあるが、平行して「いかに自立したままで自立を維持できるか」も重要である。すなわち、『弱らないように(=予防)』と『弱っても安心(=ケア)』の両ウイングをしっかりと充実させることが大きな課題となってくる。

まず、在宅療養も含めた進行した虚弱期においては、「病人である前に『生活者』である」という理念の下に、住み慣れた街全体で生から死までを地域全体で支え、みて(診て・看て)いくという地域完結型の医療への進化、そして機能分化型のシステム型医療へのパラダイム転換が求められる。すなわち従来の「治す医療」から『治し、支える医療』という原点に立ち返る必要があり、その象徴的存在がまさに在宅医療である。言い換えれば、生活臨床とも言うべき心を委ねた医療人が今まで以上に横に寄り添う姿が必要であり、同時に医療介護の円滑なシステムと療養生活環境システムの両面サポートが存在することにより、はじめて生活の質が維持されるのである。

一方で、皆がいつまでも自立して居続けたい訳だが、そこには低栄養を背景とし「虚弱(フレイル)」及びその根底をなす「加齢性筋肉減弱(サルコペニア)」という大きな問題があり、なかでも高齢期における食の安定性を改めて再考する必要がある。我々は千葉県柏市における大規模健康調査(柏スタディー)を通じて、高齢者における『食力(しょくりき)』というものに改めて焦点を合わせ、食環境の悪化から始まる筋肉減少を経て最終的に生活機能障害に至る構造を新たな切り口で概念の再構築をしている。そこには早期の所見として「オーラル・フレイル」とも言うべき歯科口腔機能の軽微な機能低下や食の偏りも認められ、高齢者の食力を維持向上させるためには今まで以上の歯科側と医科側の十分なコラボレーションが強く求められる。また、さらに上流(川上)においては、社会性の虚弱(social frailty)の要素も大きく影響していることが分かってきた。そのためには、社会性・口腔/栄養状態・身体機能評価などの幅広い指標の中から代表的で簡便な指標(市民目線での早期介入ポイント)を見出し、高齢期での従来のメタボ概念(カロリー制限)から上手く切り替えさせ、「社会性・栄養面(食と

歯科口腔)・運動」という3つの側面を状態が顕在化する前の早期の段階から介入すべきであることを物語っている。そこには、我々専門職だけの活動で乗り越えられるものではなく、生活の場(コミュニティ)という視点でより早期からの虚弱予防につながる市民目線での活動も必要不可欠なのであろう。言い換えれば、健康づくり地域リーダーのサポートを得ながら、国民自身がより早期から「しっかり噛んで、しっかり食べ、しっかり動く」という基本的な概念を再認識し、結果的に行動変容につなげられるのが鍵となる。すなわち国民目線での活動(自助・共助・互助)を通して国民運動にまで発展させることが出来、はじめて理想的な包括的介護予防施策となるのであろう。

最後に、誰しもが避けられない虚弱フローをイメージする中で、予防とケアの両面において、①国民目線として分かりやすい概念と理念、②国民に一番近い存在(地域リーダー等)による日常生活の延長線上での有効的な健康増進活動と、我々専門職の活動との融合、③医科側による早期からの歯科口腔管理への重要性の再認識、等の視点も強く求められる。しかし、そこには医科歯科合同の大きなムーブメントが必要であり、新旧の知見を十分踏まえた上での包括的アプローチをいかに有機的に持続可能な形で達成するのが鍵であり、また最終的な「Aging in Place」の達成につながるのであろう。

略 歴

【学歴・職歴】

平成 2年	東京慈恵会医科大学医学部 卒業
同年	千葉大学医学部循環器内科 入局
平成 3年	亀田総合病院(循環器内科) 君津中央病院(循環器科) 東京都東部地域病院(循環器科)を経て
平成 9年	東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 医員
平成13年	同所属 助手
平成14年	米国カリフォルニア州スタンフォード大学医学部循環器 内科 研究員(Cardiovascular Medicine, Post-doctoral fellow)
平成17年	東京大学加齢医学講座 助手にて復職
平成18年	同所属 講師 医局長, 病棟医長, 外来医長を歴任
平成23年	東京大学・高齢社会総合研究機構(IOG: Institute of Gerontology: ジェロントロジー)准教授 現在に至る

●平成 26 年 9 月 27 日 (土)

【歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム】

歯学部棟 4F 第一講義室

座長：鳥井 康弘 教授 (岡山大学病院卒後研修センター歯科研修部門長)
飯田 征二 教授 (岡山大学病院歯科系代表副病院長)

演 題 1 9:30 ~ 9:50

片岡 竜太 教授

昭和大学歯学部

「昭和大学の医歯薬看護連携教育」

講演概要

医・歯・薬・保健医療学部（看護学科，理学療法学科，作業療法学科）からなる医療系総合大学の昭和大学では，大学の教育理念に「学部の枠を越えてともに学び，互いに理解し合え，協力できる人材を育成する」ことを明記し，チーム医療に積極的に貢献できる医療人の養成を目的に，全学部，全学年（1学年約 600 人）にわたる体系的，段階的な学部連携教育を導入している。

1 年次は山梨県にある富士吉田キャンパスで 4 学部学生を一緒にした全寮制教育を行ない，2 年次以降は東京のキャンパスで 4 学部と 8 つの大学附属病院が併置された環境で各学部の学生と教員の学部間交流を日常的に行っている。

多職種連携教育としての学部連携教育は，低学年ではチーム医療の基盤作りとして，大学内外での体験実習や問題解決型学習（PBL チュートリアル）を行っている。医歯薬 3 年次と 4 年次には，学部連携 PBL チュートリアル，5 年次には 4 学部 6 学科の学生グループ（4～6 人）がのべ 120 病棟で 1 人の患者を 1 週間受け持つ学部連携病棟実習を必修として実施している。6 年次には学部連携アドバンスド病院実習と地域医療実習を選択実習として実施している。これらの教育の実践とその成果を紹介する。

略 歴

【学歴・職歴】

1985(昭和60)年	昭和大学歯学部	卒業
1985(昭和60)年	昭和大学大学院歯学研究科顎顔面外科学専攻	入学
1989(昭和64)年	昭和大学大学院歯学研究科顎顔面外科学専攻	卒業
1989(昭和64)年	昭和大学歯学部第1口腔外科学教室	助手
1996(平成 8)年	米国ノースカロライナ大学顎顔面センター	Research Associate
2000(平成12)年	昭和大学歯学部口腔外科学教室	講師
2008(平成20)年	昭和大学歯学部歯科歯学教育推進室	室長 准教授
2011(平成23)年	昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座歯学教育部門	教授

●平成 26 年 9 月 27 日 (土)

【歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム】

歯学部棟 4F 第一講義室

座長：鳥井 康弘 教授 (岡山大学病院卒後研修センター歯科研修部門長)
飯田 征二 教授 (岡山大学病院歯科系代表副病院長)



演 題 2 9:50 ~ 10:10

弘中 祥司 教授

昭和大学歯学部

「昭和大学の在宅医療支援歯学」

講 演 概 要

医療系総合大学の特徴を生かした本学のチーム医療は、全学部学生の必修科目として現在も継続中である。超高齢社会を迎えた我が国において、在宅医療は近年における高齢者対策の中心的役割を果たすと厚生労働省も試算しており、本学でも選択実習としてチーム医療における在宅医療実習を4年前から実施している。今後の歯科医療の方向性からも在宅医療を支援する歯科医学は重要と考え、本学でもITを通じた基礎学習を実施し、本格的臨床実習における在宅医療支援歯学の礎を現在進行中である。本学のこれまでの経過・経緯と今後について報告を行いたい。

略 歴

【学 歴 ・ 職 歴】

1994年 北海道大学歯学部歯学科 卒業
1996年 北海道大学歯学部附属病院 医員
2000年 北海道大学歯学部附属病院 助手(咬合系歯科)
2001年 昭和大学歯学部口腔衛生学教室 助手
2006年 昭和大学歯学部口腔衛生学教室 准教授
2013年 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門 教授
現在に至る

●平成 26 年 9 月 27 日 (土)

【歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム】

歯学部棟 4F 第一講義室

座長：鳥井 康弘 教授 (岡山大学病院卒後研修センター歯科研修部門長)
飯田 征二 教授 (岡山大学病院歯科系代表副病院長)

演 題 3 10:10～10:40

宮脇 卓也 教授

岡山大学歯学部教務委員会臨床実習実施部会長

「在宅歯科医療学を支えるシミュレーション教育と
臨床講師制度を利用した在宅介護歯科医療教育」

講演概要

日本は超高齢社会であり、世界で最も高齢化が進んでいる国である。高齢化に伴い、在宅療養者が増加していることから、超高齢社会においては、在宅療養高齢者に対応した医療の整備と医療教育が必要である。そこで、岡山大学歯学部では、在宅療養高齢者の歯科医療を担う歯科医師を育成するために、地域歯科医院および病院歯科と連携し、臨床講師制度を利用した在宅介護歯科医療教育を構築した。特に、歯学部臨床実習生全員に、在宅・訪問歯科診療の現場で歯科医療を体験させる、在宅・訪問歯科診療実習を臨床実習の中に組み込み、体験させることで、超高齢社会に求められる歯科医師の資質を涵養することを、岡山大学歯学部の使命としている。さらに、この在宅・訪問歯科診療実習が単なる見学に留まることのないように、在宅療養高齢者の体全体を再現した在宅診療教育用シミュレータを開発し、在宅・訪問歯科診療のためのシミュレーション教育を計画している。本シンポジウムでは、平成 26 年度に実施した在宅・訪問歯科診療実習の成果を報告するとともに、在宅・訪問歯科診療のためのシミュレーション教育の展望について紹介したい。

略 歴

【学 歴 ・ 職 歴】

昭和61年 3月 岡山大学歯学部歯学科 卒業
 平成元年 8月 岡山大学歯学部附属病院 助手(歯科麻酔室)
 平成 8年 2月 岡山大学歯学部附属病院 講師(歯科麻酔科)
 平成 8年11月 岡山大学歯学部附属病院 助教授(歯科麻酔科)
 平成19年 8月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
 (現 歯科麻酔・特別支援歯学分野)
 平成23年 4月 岡山大学病院副病院長(歯科系教育・研究担当)(併任)
 岡山大学歯学部委員会臨床実習実施部会長(併任)
 現在に至る

●平成 26 年 9 月 27 日 (土)

【歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム】

歯学部棟 4F 第一講義室

座長：鳥井 康弘 教授 (岡山大学病院卒後研修センター歯科研修部門長)
飯田 征二 教授 (岡山大学病院歯科系代表副病院長)



演 題 4 10:40 ~ 11:10

佐藤 勝 教授

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座

「地域医療における「ヒト」の育成 地域全体で育て地域医療
マインドを培うー地域医療人材育成の教員の立場からー」

講演概要

当講座は「地域で学ぶ，地域で育つ，地域を支える」という基本理念のもと地域立脚型の教育に力を入れています。うわべだけでなく本質まで体感できるように入学後早期より 1～2 週間ずつ，在学中複数回，一部必修化で地域医療機関の皆様と協力しながら地域医療実習を実施しています。

地域の実情を知るため保健，福祉介護や市町村行政の関係者，更に地域住民とふれあいの場を設けて頂く等，沢山の地域資源を動員してもらいながら医学生を育てています。地域の医療自体（保健福祉介護を含めた地域包括ケアにも）に感動している事もさることながら，地域の人々が地域や住民のために誠心誠意尽くされている姿，その姿勢や熱意，志しや生き様に多くの学生は感銘を受けています。多くの医学生は「目の前で困っている人の何とか力になりたい」という純粋な思いで医師への道を選んでいるためか「いつでもどんな事でも相談にのる医療」を実践する地域の先生方に自身の理想とするロールモデルを見出したのだと思います。また多職種の方々と信頼しながら一緒に地域医療を作り上げ，更に地域住民と良い地域を築き上げている事に接し，その素晴らしさを知り，地域医療のイメージを覆された多くの学生が感想を述べる等，地域医療マインドの醸成に繋がっています。

実習に参加した 1 年生が実習での感動を未参加の同級生全員に伝えようと「地域医療シンポジウム」を自ら企画，開催。学生自身が伝える事で臨場感が増し学生全体の地域医療への理解が深まり医師になる目的意識が明確化し勉学意欲が向上した学生も増えました。複数大学間交流も手がけ「医学生が考える地域医療とは」と題した医学生中心のフォーラムを開催したり，地域枠学生（岡山大学と広島大学岡山県枠）・自治医科大学学生合同セミナーでは将来一緒に働く学生達が地域医療現場を見たりグループワーク等を通し互いの現状や将来への期待や不安等も共有しています。更に当大学医学科のみならず歯，薬，看護，臨床検査，法，経，文，教育，工，農，他大学のリハビリ，介護，福祉など様々な領域の学生が地域に集りワークショップ等を通し，学生時代から多職種連携の大切さを理解するのと共に，地域医療の仲間作りにも注力しています。

また私は現在も哲西町診療所（現岡山県新見市）において医学生や研修医，看護学生，小中高生，地域住民等への教育や研修に携わっています。なかでも初期臨床研修医の教育には力を入れています。実践形式とし毎晩 2 時間その日の全カルテを振り返る症例検討会を実施。市長をはじめ保健師やケアマネ

一ジャー等の講義や懇話会や住民との語る会も織り交ぜる等、地域資源をフル活用し指導しています。地域のあたたかさに感動し地域医療に魅力とやりがいを感じ大半が「将来診療所で働きたい」と言ってくれます。実際1カ月研修した医師が4年後に哲西町診療所へ赴任したように研修した地域に再赴任する事が全国でも見られるようになっていきます。

地域医療機関からは実習を受け入れることにより「病院全体で育てようという雰囲気が醸成できた」「希望に満ちた若い学生が来る事により病院内が活性化した」と言われるようになる等、地域医療の教育や普及に沢山の方々に関わってもらい色々な切り口で多くの人々に地域医療に触れて知ってもらう事により地域医療を支え育てていこうとする仲間作り・環境作りにも繋がっていると感じています。地域医療崩壊が問題になる昨今、医療関係者だけで推し進める地域医療づくりは今やもう限界です。住民も行政も自分自身の問題と考え積極的に参加し一緒に地域医療づくりを進めていけばきっと魅力あるまちづくりへと繋がっていくと考えます。

将来の担い手である若い医学生・研修医等を地域全体で熱意をもって育てる事と、彼らが地域に残る、あるいは戻ってきたいと思える地域のあたたかい支え（仲間作り・環境作り）こそが地域医療再生の大きな鍵となるでしょうが、その礎を地域の人々と一緒に築き始めている事を実感しています。

略 歴

【学歴・職歴】

昭和63年 3月	自治医科大学医学部卒業
昭和63年 6月	島根県技術吏員, 島根県立中央病院
平成 2年 6月	島根県島後町村組合立隠岐病院内科医長
平成 4年 4月	島根県都万村国民健康保険診療所長
平成 7年 4月	島根県立中央病院地域医療科医長
平成 8年 4月	財団法人島根県環境保健公社島根県成人病予防センター 医長
平成 9年 4月	都万村国民健康保険診療所長
平成 9年 7月	都万村保健医療福祉総合センター所長
平成13年 4月	岡山県哲西町技術吏員 哲西町役場保健医療担当理事
平成13年 7月	医療法人哲西会理事長
平成13年10月	哲西町診療所長
平成17年 3月	新見市技術吏員, 新見市哲西支局参与(保健医療担当) (市町合併により)
平成21年 3月	社会医療法人哲西会理事長
平成22年 5月	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座教授(地域医療支援担当)

●平成 26 年 9 月 27 日 (土)

【歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム】

歯学部棟 4F 第一講義室

座長：鳥井 康弘 教授 (岡山大学病院卒後研修センター歯科研修部門長)
飯田 征二 教授 (岡山大学病院歯科系代表副病院長)



演題 5 11:10 ~ 11:40

池邊 一典 講師

大阪大学歯学部

「高齢者の歯と口腔機能が健康長寿に及ぼす影響：
文理融合型コホート研究より」

講演概要

我々は、歯科学（補綴歯科学，歯周病学）のみならず，老年内科学，栄養疫学，心理学，社会学，疫学・統計学の各分野が参加する健康長寿に関する文理融合型前向きコホート研究を進めている。調査地域は，兵庫県と東京都のそれぞれ都市部と農村部とし，70歳約1000名，80歳約1000名，90歳約300名を対象としている。

健康長寿には，口腔の状態以外に，当然，疾患の遺伝素因，社会経済的要因，また性格，食生活，生活習慣，ライフスタイルなど多くの要因が影響し，研究分野によって注目している事柄が違う。また，何をもちて健康とするかは難しい問題であるが，本研究は，生活習慣病や心身の機能障害，ならびに QoL や幸福感など，考え得るほぼ全ての項目を検討している。したがって，健康長寿の要因を包括的に解析し，他の要因と比較し，口腔機能がどの程度，健康長寿に重要なのかを明らかにできる。

これまで，ベースライン調査時の横断研究から，咬合と食生活，動脈硬化や運動機能との関連を明らかにした。今後は，口腔機能が高齢者の心身状態に及ぼす影響（因果関係）について縦断研究によって明らかにする予定である。さらに，遺伝子解析を進めることによって，新たな老化・長寿遺伝子を発見することを期待している。あるいは，歯科疾患と他の疾患との共通の遺伝素因，また遺伝・環境（口腔機能）交互作用を分析する予定である。

略 歴

【学歴・職歴】

昭和62年	大阪大学歯学部歯学科 卒業
平成 3年	大阪大学大学院歯学研究科 修了
平成 7年	大阪大学助手歯学部(歯科補綴学第二講座)
平成10年	大阪大学歯学部附属病院講師(第二補綴科,元咀嚼補綴科)
平成11~12年	文部省在外研究員 Visiting assistant professor, The University of Iowa
平成24年	Gerodontology(国際ジャーナル), Associate Editor
平成25~26年	President, International Association for Dental Research, Geriatric Oral Research Group

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革 — 死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制構築 —

達成目標: 口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場をサポートできる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防、虚弱予防を目的とした新しい歯学教育・研究を推進できる歯科医師を育てる。

課題

1. 歯科医師は患者の死や人生に寄り添うことに慣れていない
2. 健康な患者に通常行われる歯科的診断と治療が必要介護者にそのままあてはまらない
3. 急性期病棟での多職種連携実習や在宅介護実習の教育の場が不足
4. 教育機会が不均等で共通教育ツールが不足
5. 周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足

①講義シリーズ(連携大学共通, 6単位)

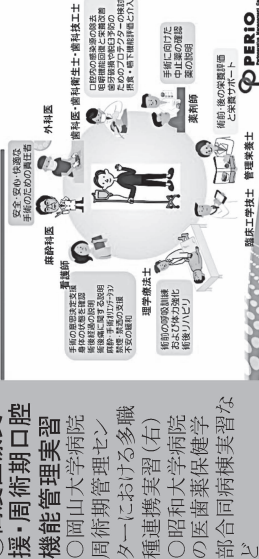
○口腔と全身健康の関わり(2単位), ○がんの化学療法や各種外科的介入等における周術期管理(2単位), ○老人介護施設や在宅介護医療における歯学教育, 死生学, 多職種連携, 地域包括ケア(2単位)

②シミュレーション・PBL演習

○全連携大学に要介護高齢者を模したシミュレータを配布、ブレクニカル演習を開発
○老人介護施設見学や地域医療人材育成講座の地域医療実習を利用したPBL演習を提供する。

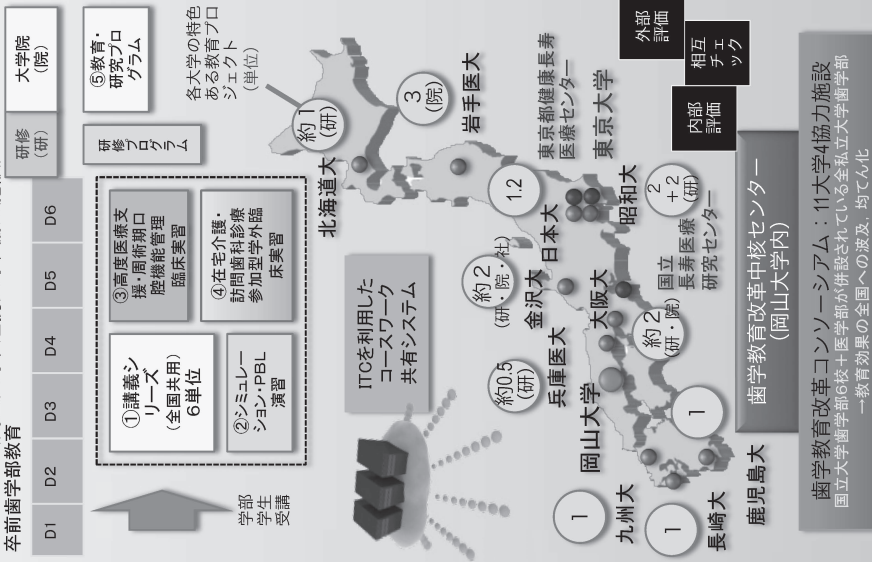
③高度医療支援・周術期口腔機能管理実習

○岡山大学病院周術期管理センターにおける多職種連携実習(古)
○昭和大学病院の医歯薬保健学部合同病棟実習など



医療支援歯学教育コースワーク

(岡山大学, 連携大学, 協力施設)

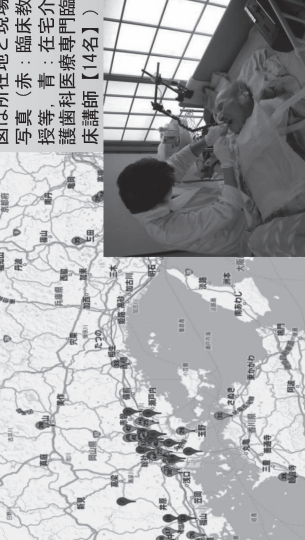


解決策

1. 共同授業に死生学や地域包括ケアの概念の導入
2. 医学教育と歯科技術教育の融合, 患者の機能低下にあわせた介入の選択
3. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 急性期病棟における周術期管理や在宅介護実習を提供
4. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 全国統一電子化授業ライブラリーを作成し, 共有
5. 教育を支える臨床研究能力の開発, さらなる研究フィールドの確保

④在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習


○長崎大学の離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習, ○日本大学の摂食機能療法学外実習, ○東京大学高齢社会総合研究機構 柏プロジェクト医療フィールド, ○岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習(下図)等。



⑤高齢者の疫学研究フィールド

○東京大学の柏研究フィールド, ○大阪大学や東京都健康長寿医療センターのSONIC研究フィールドに歯科として積極的に参画し, 高齢者医療における多職種連携研究を進め, 健康長寿社会を担う医科歯科連携教育に反映する。

ITを利用した講義の共有(eラーニング), 各担当校間の教員および学生の相互交流, 主幹校(岡山大学)による全国規模のシンポジウム開催, 海外専門家の招聘講演



文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」

**歯学教育改革コンソーシアム設立記念
講演会・シンポジウム**